おおさわ学園

おおさわ学園

令和元年度　おおさわ学園の評価・検証　結果報告

検証項目	１　コミュニティ・スクールの運営
目標	・ＣＳ委員会における協議と支援そして広報の充実 ・保護者・地域住民の学園・学校教育活動への参画推進
取組	・ＣＳ委員会の年間計画を作成し協議を活発化する。 ・広報活動を行い、学園・学校のサポート活動の充実を図る。

成果	課題と改善方策
・ＣＳ委員会の年間計画を作成し、新しい委員もいつどんなことが話し合われるのか、そのために部会でどんな準備をしておけばいいのか等が明確になり、見通しをもって参加できるようになった。 ・大沢台小と羽沢小で３校の教員が参加してＣＳ委員と教員の懇談会を実施し、意見交換を行った。新しい委員との顔合わせの機会となった。 ・ＣＳの広報活動については学校評価アンケートの回収率も高く、ＣＳの広報活動の理解度や取組評価の割合が上昇しているため、一定の成果が見られた。	【課題】 ・１年の流れが理解できたので活動のねらいがさらに達成されるような取組を行う。 ・ＣＳ委員・教職員・子どもたちのきずなが深まるような活動が必要である。 ・広報やサポート活動のさらなる見直しを行い活動を充実させる。 【改善方策】 ・ＣＳの各部会の活動を活性化させたり、研修会を行う。 ・ＣＳ委員・教職員・子どもたちでテーマを決めて熟議を実施する。 ・広報部会で学園ＨＰの更新を行えるように研修を進める。 ・各校でサポートの活用・方法について見直しを行う。

検証項目	２　小・中一貫教育校としての教育活動
目標	学園研究の充実
取組	「学力向上を目指したおおさわ学園カリキュラム作り」を研究主題とし、学園カリキュラムの作成と研究授業を実施する。

成果	課題と改善方策
・新学習指導要領の完全実施の年であり、改訂の基本的な考え方を確認した上で、「知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」」の実現に取り組むことができた。 ・児童・生徒のつまずきを解消し、見通しをもった質の高い授業を９年間一貫して行うために「おおさわ学園カリキュラム」の作成・検証等を研究授業を通して行った。 ・全教員が、６つの分科会に所属し８回の学園研究会、講師を招聘した６回の研究授業を実施できた。 ・「おおさわ学園カリキュラム」の作成と同時に、各教科の「令和２年度の重点！」を共通理解できた。	【課題】 ・「おおさわ学園カリキュラム」を活用すると同時に評価・改善に取り組むこと。また領域においても「三鷹市小・中一貫カリキュラム」に基づいた指導を徹底しながら「おおさわ学園カリキュラム」の作成に取り組むこと。質の高い授業の実現。 【改善方策】 ・全教員が、学園研究、校内研究、鷹教研等とタイアップしながら、今までの教育実践を引き継ぎつつ「おおさわ学園カリキュラム」を生かし、授業を工夫・改善に取り組む。 ・優れた教育実践の教材・指導案を集約・共有化し学園として指導力を向上していく。

検証項目	３　（知）確かな学力
目標	授業改善
取組	学園研究会や校内研究会を計画的に実施し、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業を目指す。

成果	課題と改善方策
・小学校では、年間を通じ校内研究に取り組んでいる。 ・大沢台小・羽沢小共に国語科で研究した（大沢台：言語領域、羽沢：読解力）。年間４本の研究授業行い、児童の語彙力や読解力を高めた。また、校内研究と関連させ、主任教諭が教諭に指導法を伝授する校内ＯＪＴも２か月に１回のペースで行ったり、16 時 30 分からの 15 分間を活用して校長および主任教諭が講師となって各種講習を行ったりして、授業力向上に役立てた。 ・中学校では、公開授業を実施した。２学期末までに全教員が１回実施し、管理職及び空き時間の教員が授業観察をして、授業者自ら授業についての批評を聞きに行った。	【課題】 ・「主体的・対話的で深い学び」についての理解が教員によって統一していない。 【改善策】 ・学園全体で「主体的・対話的で深い学び」に関する教員向けの研修を年度当初に行う（学園研の初回）。それを基にして、学園研究会や校内研究の学習指導案のフォーマットを作成して研究に臨む。検証も、「主体的・対話的で深い学び」ができていたのかということ及び育てたい資質・能力が身に付いたかということを視点として行うことで、焦点化できる。教師の授業力向上は児童・生徒の学力向上につながる。

検証項目	４　（徳）　豊かな人間性
目標	心の教育
取組	地域社会との幅広い交流の中で、地域の文化継承・発展に寄与し、参加やボランティア活動を通して地域を愛する児童・生徒を育成する。 道徳教育の充実を図り、豊かな情操を育み、情緒の安定を図る。

成果	課題と改善方策
・全国学力調査（質問紙）によると、３校とも地域行事に積極的に参加していることがわかる（都平均より大沢台小は 3.7、羽沢小は 15.5、七中は 19.4 ポイント高い）。特に七中は「地域のボランティアに参加したことがある」と答えた生徒が約９割にのぼり、これは都平均より 37.2 ポイントも高い。 ・都学力調査（質問紙）によると、自分のことを大切な存在だと感じている子どもが都平均より大沢台小で 4.1、七中で 2.4 ポイント高く、特に羽沢小では 22 ポイントも高い結果であった。地域社会とともに活動し、多くの大人に認められる経験が、子どもの自己肯定感を育てている。	【課題】 ・開園 10 周年を終え、地域社会との結びつきが強まってきたが、一人ひとりの子どもの可能性を広げるには、さらに地域の諸機関と関係を深める必要がある。 【改善方策】 ・スクール・コミュニティ推進委員等を窓口にして地域人財を活用し、社会に開かれた教育課程を一層推進することにより、子どもたちの中に、地域社会の一員としての自覚を促し、地域を愛する気持ちを養う。

検証項目	５　（体）　健康・体力
目標	基本的生活習慣の確立
取組	生涯にわたり健康で自立した生活を送るための基礎となる基本的生活習慣の定着や心身の健康・体力の向上を図る。

成果	課題と改善方策
・小学校においては、「持久走週間」を設定し、体育の時間等とも連携して、十分長い距離を走る経験を積ませてから、「持久走記録会・マラソン大会」を実施することができた。また、短なわ・長なわの取組も行ったため、巧みな動きや動きを持続する能力を高める体つくり運動のねらいも達成できた。 ・中学校においても、「マラソン大会」を行っている。持久力については、体力の中でも特に高い。	【課題】 ・体力テストにおける結果から、全国や東京都の平均を下回る学年や項目が見られる。 【改善策】 ・９年間を見通した「体つくり運動」の指導を改善する。 ・持久走やなわ跳びなどの体力向上のための取組や小学校における「元気アップカード」の実施なども「体つくり運動」の授業とタイアップする。 ・学校だけでなく、家庭や地域にも、児童・生徒の体力向上の情報を発信し、家庭・地域の教育力も生かしていく。

検証項目	６　特色ある教育活動
目標	小・小、小・中の交流活動の充実
取組	小中合唱交流会、児童生徒代表者会、中学校授業見学、部活動見学、地域行事等を通し、交流を図る。

成果	課題と改善方策
・「ふれあい音楽交流」「授業見学」「部活動体験」等を通して、仲間意識が高まったという声が多くあった。 ・「川上村自然教室」に向けての活動や本番を通じて６年生のきずなが深まった。	【課題】 ・「ふれあい音楽交流」の内容や時程についていくつか反省があった。 ・教員の取組評価で肯定的な回答がやや低かった。 【改善方策】 ・「ふれあい音楽交流」の時程や内容を改善して実施する。 ・教員に対して、ねらいや活動の趣旨をともに考えたり、周知する活動を行う。

検証項目	７　学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	教員のタイムマネジメント力の向上
取組	校務を見直したりＩＣＴを活用したりしながら、効率化を進める。

成果	課題と改善方策
・校務、行事、週時程等の見直し、諸会議の効率化等を各校ともに推し進めている。 ・教員一人一人は、自己申告書を通して、校務改善の目標を設定して実行するなど働き方改革への意識は確実に高まっている。その結果、ほとんどの教員が在校時間週 60 時間以内の目標を達成できている。	【課題】 ・新学習指導要領実施に対応した、よりよい授業を実施するために、限られた勤務時間の中でも、研修や教材研究等の時間を十分に確保していく必要がある。 【改善方策】 ・校務支援システムの積極的な活用や会議の見直し等をさらに推し進め、児童・生徒たちと向き合う時間を確保するとともに、時期による授業時数の調整等を通して、研修や教材研究等の時間を確保していく。

令和元年度　おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ

（1）から（7）の検証結果を踏まえて	１　「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	・コミュニティ・スクール委員の大幅な入れ替えがあったが、新しい体制で１年の活動を通じて、意見交換や交流を行うことによりＣＳ活動についての理解が深まった。 ・小・中一貫教育校としての活動が成熟し、子どもたちが中学生をより身近に感じたり、より交流を楽しむことができるようになった。
	２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	・スクール・コミュニティの構築を目指し、地域と学園のきずなをさらに深めていく。 ・おおさわ学園カリキュラムの精度をさらに上げ、児童・生徒の学力向上の課題を解決していく。
	３　「２」の重点課題を解決するための改善策
	・ＣＳ委員会とともにサポートの活用を検討し、人財発掘や学力向上を目指しながら充実を図っていく。 ・学園研究を中心として、９年間の視点でカリキュラム・マネジメントを行いながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ・学園の運営組織の見直しを図り、学園の運営方針が各校教職員に浸透するように改善する。 ・ＣＳ委員・教職員・子どもたちでテーマを決めて熟議を実施する。 ・校務支援システムの活用や会議の見直し等を行い、さらに子どもたちと向き合う時間の確保や在校時間の縮減を図る。